

当院の消化器疾患に おける腹腔鏡手術

柏崎総合医療センター 外科
植木 匡



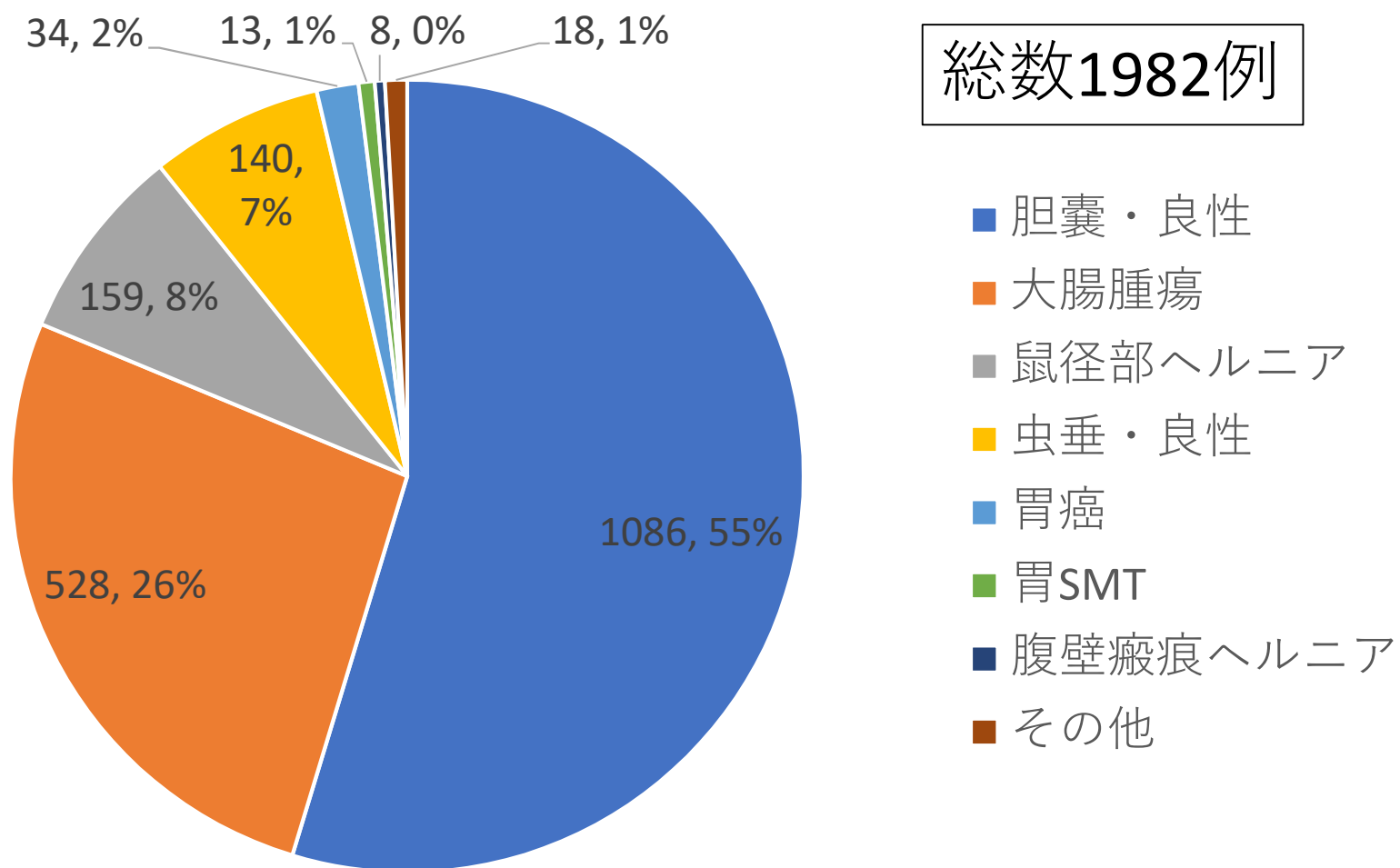
はじめに

腹腔鏡手術の利点として、腹壁破壊が少ないことより術後早期の痛みが少ない、拡大視効果、腹腔内が広く観察可能などがあげられる。当院では**1993**年に**1**例目の胆嚢摘出術を行い適応を広げてきた。当院の消化器領域での症例につき紹介する。

腹腔鏡手術の疾患別割合

導入から2020年末まで

総数1982例



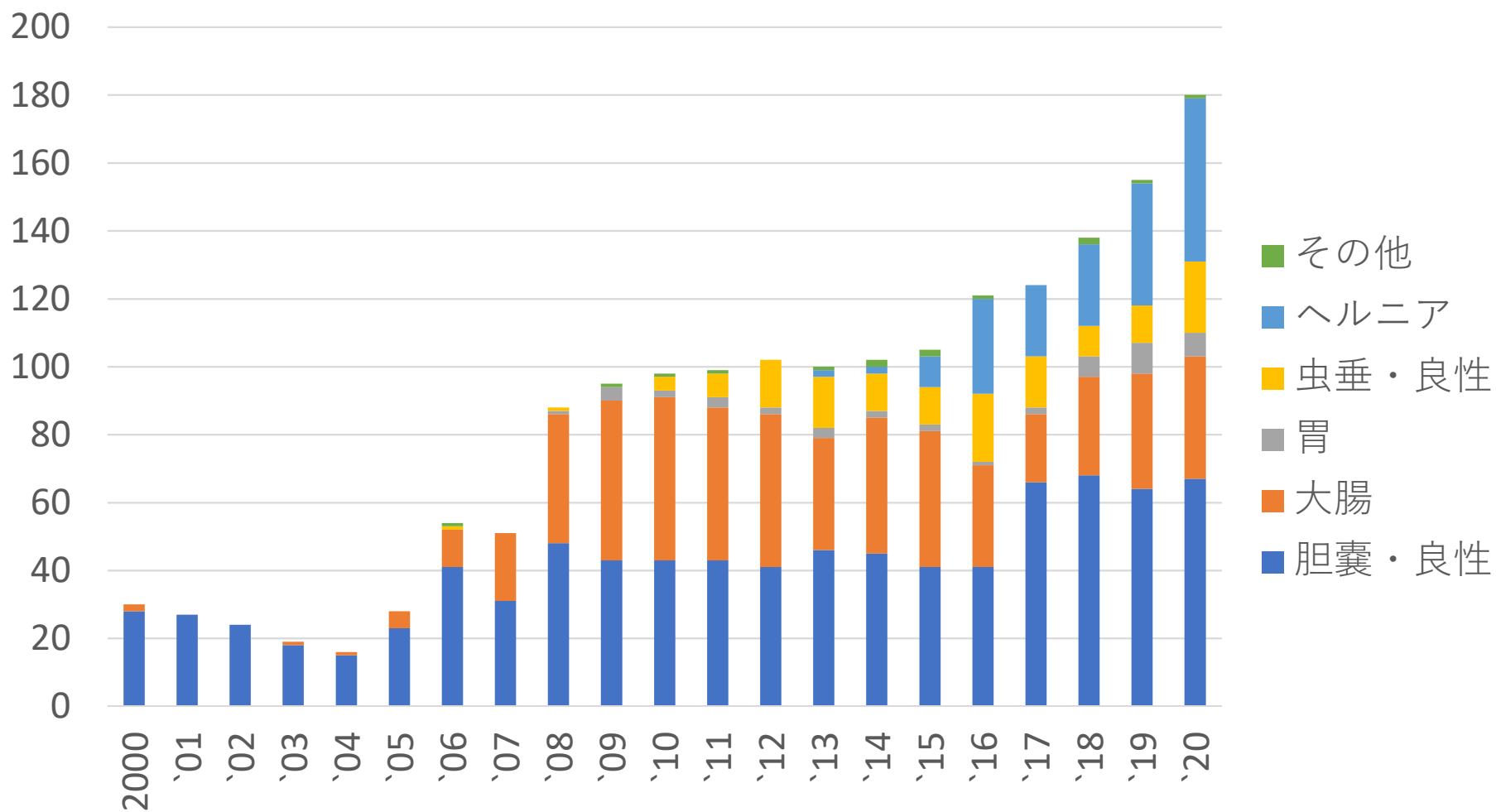
その他の疾患 18例

- 胃 : 胃軸捻転
- 小腸 : 癒着性腸閉塞症, 腸重積, 小腸異物, 小腸癌
- 大腸 : 憩室炎, 大腸癌局所再発
- 膵癌 : 胃小腸吻合
- ヘルニア : 横隔膜ヘルニア, 食道裂孔ヘルニア

Spiegel hernia

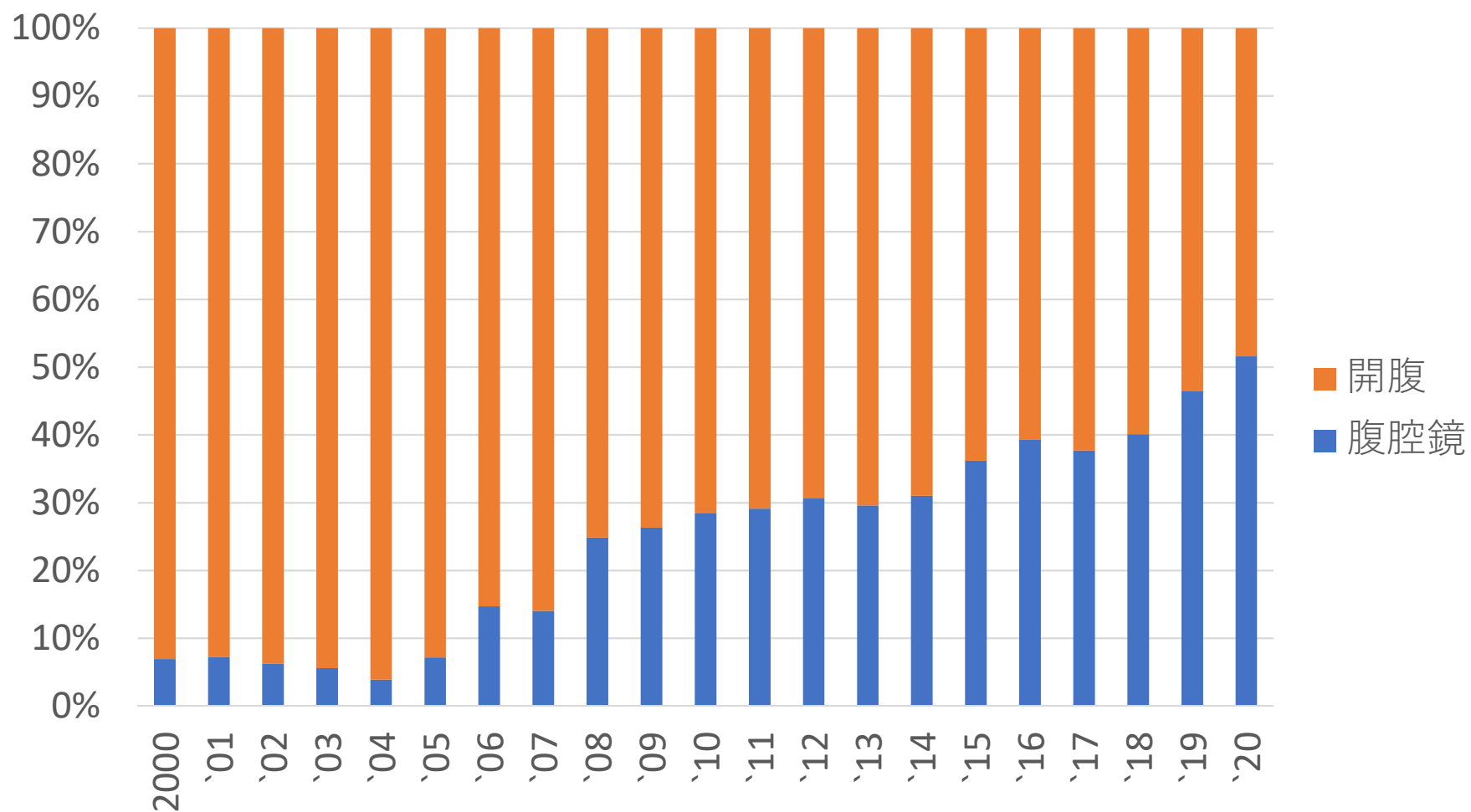
- 術後腹腔内膿瘍
- 靱帯硬化症
- 腹膜透析カテーテル位置補整

腹腔鏡手術数の推移



消化器外科手術に占める割合の推移

甲状腺，乳腺，カテーテル，体表手術などを除く。



腹腔鏡や手術機器の進歩

- 1) カメラの4K/8K化, 3D化 ⇒画質や立体視の向上
- 2) 吻合機器 ⇒腸管縫合の簡易化
手動式 (Manual) から電動式 (Powered) へ
⇒機械操作の容易化
(縫合器: Signia[®], Powered ECHELON FLEX[®])
(吻合器: Powered stapler[®])
- 3) 超音波凝固切開装置 ⇒細血管の切離の簡易化
コードレス化 ⇒?
(Sonicbeat[®], HARMONIC[®], Sonicision[®])
- 4) 血管クリップ ⇒血管結紮の簡易化
- 5) 吸収性縫合糸(absorbable) ⇒術後感染症(SSI)の減少
- 6) タッカー ⇒メッシュなどの固定の簡易化

電動式縫合器 Signia[®]



腹腔鏡手術の適応外への対応

【患者側】

- 1) 作業スペースがとれない
 - ・ 術後癒着 ⇒ 前回手術の情報収集
 - ・ 腸閉塞症 ⇒ イレウス管やステントによる減圧
- 2) 巨大腫瘍（8から10cm以上）
癌根治手術で根治性が不確実 ⇒ 抗癌剤治療による縮小やダウンステージ

【医療者側】

- 1) 腹腔鏡の技量が不十分 ⇒ 熟練医の招聘
- 2) 機器の故障 ⇒ 機器の複数化

鼠径部ヘルニアに対する手術

【メリット】

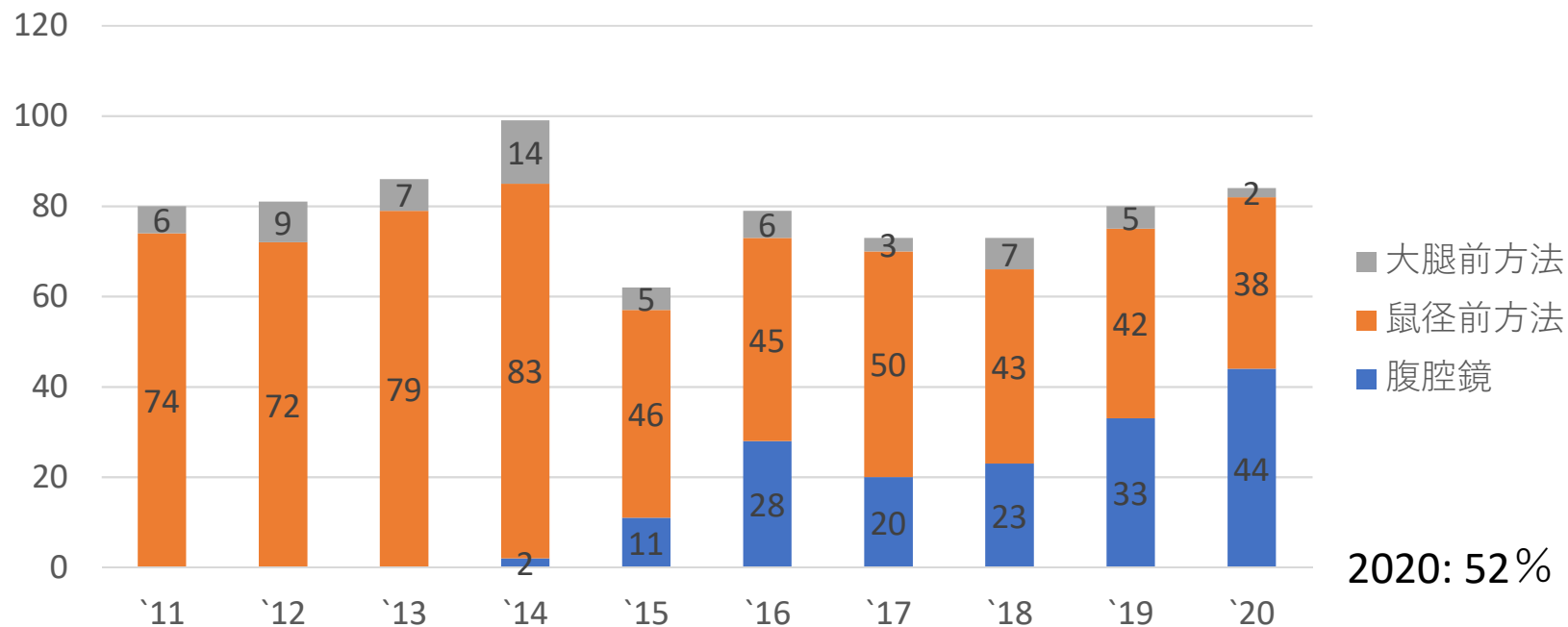
術後急性期の疼痛の減少。ヘルニアの型がわかる。対側の有無がわかる。

小児はメッシュを使用しない手術で当院では行っていない。

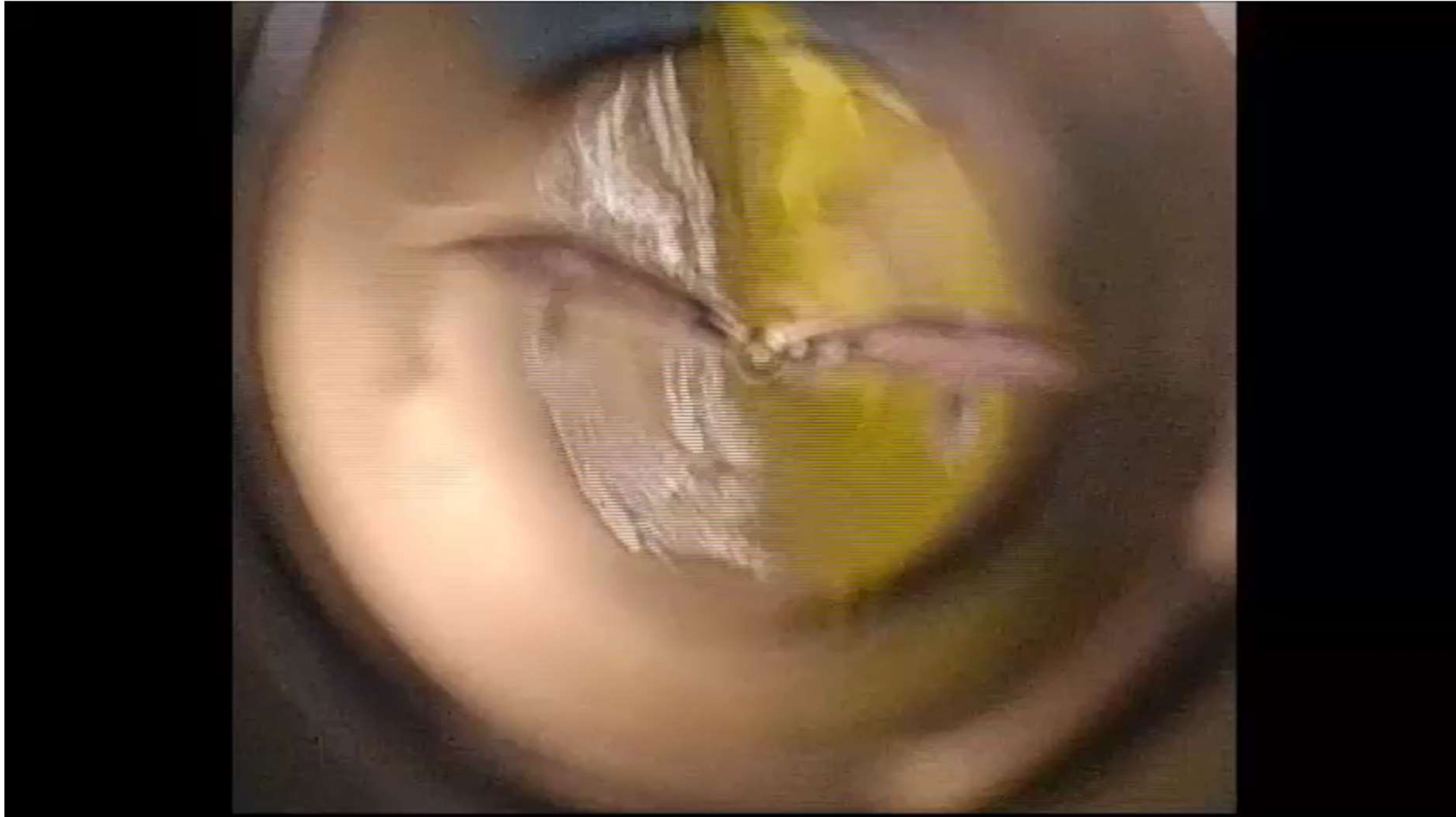
【適応外】

- ①合併症などで全身麻酔不可，②高度腸管拡張を伴う陥頓例
- ③巨大ヘルニア，④前立腺癌前方法術後，⑤大腸・直腸癌術後

【推移】



鼠径部ヘルニアビデオ



緊急手術と腹腔鏡手術

< 緊急手術の定義：National Clinical Database >

手術をしなければ患者の生命予後や身体機能に著しい影響を及ぼすと判断され、手術実施決定後、即日（24時間以内）に行われた手術。医師の決定をもって手術実施の決定とする。

< 適応 >

- 1) 急性虫垂炎
- 2) 胃・十二指腸潰瘍穿孔
- 3) 内ヘルニア（腸管拡張が少ないか減圧後）
など

まとめ

腹腔鏡手術は，手術機器の進歩や手技の定型化により適応疾患が増加しており，当院においても半数以上を占めるようになった。

